

私がみつけた身近なエシカル

竹地由佳

エシカル消費は「なんだか難しそう」、「価格が高そう」、「意識が高い人がやることで」、「そもそもよく分からない…」など、敷居が高い印象があるかもしれません。私たち協会がお伝えしているエシカル消費とは、人や社会、地球環境や地域に配慮した消費のことです。そのエシカル消費は幅が広く、実に多様なやり方があります。今日は、お金をかけずに気軽にできる一つの方法をご紹介します。それは、お下がりです！

「‘お下がり’がエシカル消費？」、そんな声も聞こえてきそうですが… そうなんです！エシカル消費は私たちにとって身近な取り組みでもあります。例えば、兄弟や親戚の間でお下がりし合った服を着たことがある方もいらっしゃるかもしれません。

今回は、お下がりまつわる私の身近なエシカルをお話したいと思います。

私の子どもは今2歳で、保育園に通っています。保育園に着ていく服や持っていく物には、全てに名前を書かなくてはなりません。特に服に関しては、子供の体の成長が早く、あっという間にサイズアウトしてしまい、「まだ着られる状態なのに、もったいない…」と思うことが多々あります。その服を誰かにまた着てもらいたい気持ちがある中で、「名前がしっかりと書かれた服を誰かにあげるのはどうなんだろう、むしろ迷惑かな」と、悶々としていました。そこで私はその思いを伝えながら、園長先生にお下がりボックスを提案してみました。すると、すぐに賛成していただき、一週間後には可愛いお下がりボックスが保育園の廊下に設けられました！さっそく保護者からも続々と服や靴などが寄せられ、他のお友達の名前が書かれたお下がりアイテムが園内を巡り始めました。私は13cmの靴をお下がりボックスに入れて、14cmの長靴を頂きました。息子が嬉しそうに履いて、雨上がりの水たまりに入っている様子を見ると、この長靴の持ち主だった子も、きっと同じように遊んでいたのかなあと、その光景を思い浮かべ、温かい気持ちになりました。



もう一つ、息子が愛用しているパタゴニアのジャンパーがあります。保育園にも着ていくので、いつものように名前を書こうとしたとき、大発見がありました！なんと、お下りの履歴を残せる ID ラベルが付いています！



私は苗字だけを書きました。まずは息子、次にお腹にいる第二子に愛用してもらいたいからです。そして、できるだけ綺麗な状態で、次の方にお譲りしたいと思っています。

さて、お下りに対して「使い古し」のような若干ネガティブなイメージを持っている方も少なくないかもしれません。今日から「お下りは立派なエシカル消費」、「お裾分け・お福分け」と、ポジティブに言い換えてみるのはいかがでしょうか。実際に、お下りし合うことは、新たな消費を減らせます。よって、環境にもお財布にも優しいサイクルが生まれます。さらに、持ち主の思い出を重ねていくことは心の豊かさにも繋がってくるように思います。私は第二子の身の回りにおいて、できるだけ新たに買わずにお下りで揃えてみるというチャレンジを楽しむ予定です！周りのママ友さん達にも「お下り絶賛募集中」と呼び掛けています。その効果はすぐにあり、ベビーベッド・抱っこ紐・新生児用の服や新品同様の肌着を最近いただきました。子供達がもう少し大きくなったら、ものには過去・現在・未来があることを伝えていきたいです。過去は、ものはどこで誰にどのようにして作られたか・現在は、できるだけ永く愛用すること・未来は、自分にとって必要でなくなったものを、お下りやりサイクルなどの選択肢があるかを考えることです。

今年も残りわずか。年末の大掃除で、自分はもう使わないけど他の誰かにとってはお宝なアイテムが出てくるかもしれませんね！ものの未来を考えるきっかけになれば、とても嬉しいです。